

日本セラミックス協会理工系人材育成活動助成金 活動報告書

型で有田焼マグカップを作ろう
マグカップの形が、型からできる仕組みを学ぼう！
Let's make an arita porcelain mug by using a mold

(佐賀大学) 矢田光徳
(Saga University) Mitsunori Yada

実施日	8月26, 27日	Date	August 26, 27
実施場所	市村記念体育館	Place	Ichimura Memorial Gymnasium
住所	佐賀市城内2丁目1-35	Address	2-1-35 Jyounai, Saga
主催	佐賀県、佐賀県教育委員会	Organizer	Saga Prefecture, Education Board of Saga Prefecture

8月26日(土)及び27日(日)に佐賀市の市村記念体育館において、「SAGA ものズゴフェスタ 2017」(図1)の一部として、佐賀大学肥前セラミック研究センターの教職員6名と佐賀大学大学院工学系研究科大学院生3名と佐賀大学理工学部4年生3名で、「型で有田焼マグカップを作ろう マグカップの形が、型からできる仕組みを学ぼう！」というタイトルでイベントを実施した。「SAGA ものズゴフェスタ 2017」とは、佐賀県及び佐賀県教育委員会を主催として実施された今年で3回目となるイベントで、県内企業や研究機関の技術を県民に広くPRするとともに、子供たちにもものづくりの楽しさを体験してもらうことで将来の人材育成に寄与しようというものである。佐賀新聞によると、本会場の市村記念体育館を含め市内の5会場で、県内企業27社と研究機関など22団体が約40ブースを出展したようであり、この種のイベントとしては佐賀県で一番大きなものである。



図1 SAGA ものズゴフェスタ 2017 のチラシの一部 (右図の右上に本イオイベントが記載)

佐賀県は日本国内において磁器発祥・有田焼の地として知られており、佐賀大学においてもやきもの・セラミックス産業への貢献を目的として、肥前セラミック研究センターが2017年4月に設立された。この研究センターにおいて、人材育成に関して何か地元貢献ができないかを考えていた矢先、「2017年度理工系人材育成活動助成金公募」と「SAGA ものズゴフェスタ 2017」の案内をほぼ同時期に知り、このイベントを実施することとなった。イベントでは、有田焼・伊万里焼の成形技術の1つである「鑄込み」を参加者に体験してもらい、鑄込みに潜む科学技術について分かりやすく解説した(図2)。参加者は主に小学生と中学生及びその保護者であり、2日間にわたり、計6回(展示スペースの都合上、参加者8名/回に限定)の体験デモンスト

レーションを行った。具体的には、石膏型を用いた陶土泥漿による排泥鑄込みでマグカップの形を制作するというものである。石膏型と泥漿はあらかじめ肥前セラミック研究センターで準備しておき、参加者にはいくつかのパーツからなるマグカップの石膏型を組み立ててもらい、その型の中に泥漿を流し込んでもらい、その後、型を取り外すことでマグカップの形が出来上がるというものである。参加者は有田焼の作り方を楽しく学べたようである。また、アルバイトとして手伝ってくれた佐賀大学の大学院生や学部生も、授業で学んだやきもの・セラミックスの製造方法の一部を実際に体験することができ、大変勉強になったようである。参加者自らが鑄込みで作ったものを肥前セラミック研究センターで焼いて磁器にしてお渡しできれば良かったかもしれないが、センターで焼いたり郵送したりする際の破損のリスクや、郵送の手間・予算等の問題があるため、肥前セラミック研究センターであらかじめ同じ形の磁器マグカップを作成して準備しておき、参加者全員に磁器マグカップをプレゼントした。参加希望者はものすごく多く、多くの方をお断りせざるを得ない状況であり、山口祥義 佐賀県知事の来訪やNHK（NHK ニュース (<http://archive.li/rLHK1>)）や佐賀新聞 (<http://www.saga-s.co.jp/news/saga/10105/458308>) の取材もあり、大盛況であった。本イベントに助成頂いた日本セラミックス協会様にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



図2 イベントの様子の写真

(左図 有田焼のつくり方を参加者に説明している職員、右図 アルバイト学生と一緒に参加者が型に泥漿を流し込んでいる様子)